

## 第 1 回総合解析方針検討部会での 計画部会に関する主なご意見と対処方針

1. 次期基礎調査の方向性として望ましい／重視すべき役割について	
ご意見	対応
生物多様性の問題を自分事化してもらう観点では、全国のみならず都道府県や市町村など詳細な単位も対象とすることが重要	・調査のスケール/精度等については、第 2 回計画部会において検討
解析結果の地図の用途には、意志決定など政策への活用も含まれる 2 次メッシュスケール (約 10km 四方) では粗く、地点単位の調査結果は細かすぎるため、その間のスケールを埋める高解像度データが必要 次期基礎調査での把握のきっかけになる解析ができるとうい	・調査のスケール/精度等については、第 2 回計画部会において検討 ・解析のデータ粒度については、解析方針検討部会において対応し、その結果、求められる調査精度等については、令和 5 年度以降、各個別調査の「実施設計」の検討に際してインプットできるように整理しておく
獣害に関するデータの整理は研究活用においても有用。今後さらに増加が見込まれる、野生動物の市街地への移動など軋轢の危機を見せることは重要。各地の自然保護団体や狩猟者の高齢化・減少に伴う動物の分布変化の評価などに繋がるものである	・資料 3-1、資料 3-2 に反映
都市も含めた生態系の連結性等について、都市周辺の土地利用の変化を指数化し、基礎調査等で得られた生物データを重ねることで地域間の比較ができるのではないか	・都市の生物多様性について、資料 3-2 に反映
基礎調査は生物多様性の全国把握を目的としており、都市はその中でも主要な土地利用 都市の緑地の調査もマスタープランに入れられるとうい	・都市の生物多様性について、資料 3-2 に反映